

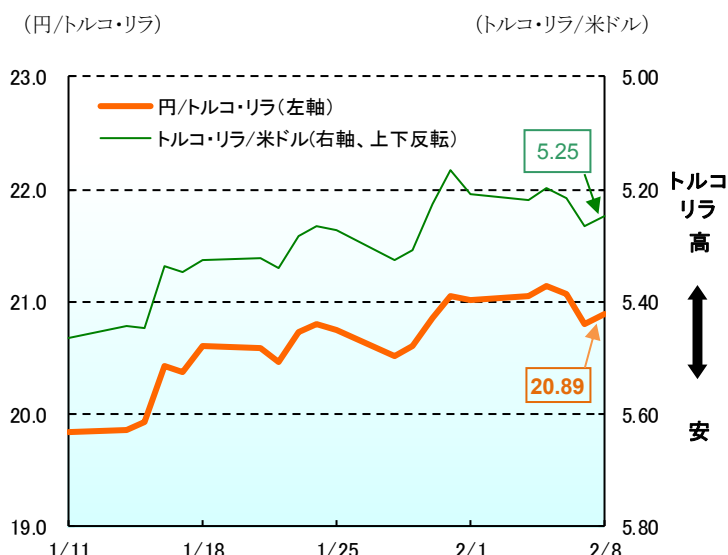
【2019年2月2日～2019年2月8日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は対米ドル・対円ともに下落しました。トルコの2年国債金利はほぼ横ばいでした。

先週のトルコ・リラは、特段材料がなく、終始比較的狭い値幅での動きとなりましたが、一週間を通してみると、対米ドル・対円ともに小幅に下落しました。シリア情勢に関しては、トランプ米大統領があらためて米軍撤退の方針を示しましたが、2月4日(現地、以下同様)に米上院で撤退を急がないという法案が圧倒的多数で可決され、トルコ市場への影響は限定的でした。国債金利はほぼ横ばいでした。

【トルコ・リラ 為替推移】(2019年1月11日～2019年2月8日)



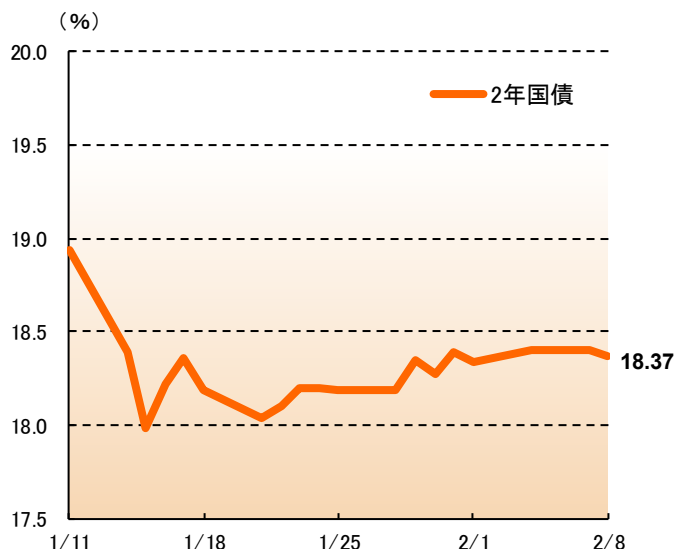
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【2】今週の見通し

今週のトルコ国内では、経常収支や鉱工業生産、失業率などの経済指標が発表される予定です。市場ではいずれの指標も前月からの鈍化が予想されており、景気鈍化のペースを確認する局面が続きそうです。

トルコ国外については、シリア情勢を巡って前述の法案可決により米軍の早期撤退の可能性は後退したものの、その後シリア国内ではIS(イスラム国)掃討の動きが激化しているとのニュースが出ています。エルドアン大統領は14日にプーチンロシア大統領との会談を予定しており、対米関係も含め引き続きシリア情勢に留意する必要があると考えています。

【トルコ 金利推移】 (2019年1月11日～2019年2月8日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <https://www.daiwa-am.co.jp/>